

平成30年度事業報告書

I 概況

1. 入館者

平成30年度も入館者数増と認知度を高めるため、様々な展示・イベントを開催いたしました。特に、春に開催した長嶋茂雄氏のプロ入り60周年記念の企画展、そして夏には第100回全国高校野球選手権大会記念展として、全都道府県から夏の大会最多出場高校のユニホームを一堂に展示するなどが大好評を得、大幅な増員に繋がりました。また、夏休み期間のイベントに対しては、昨年につき地元文京区そして野球文化振興の相互協力に関する協定を締結した船橋市以外に、新しく周辺地区の豊島区、港区の校長会に出席し、積極的に働きかけました。さらに、本年3月に開催したMLB開幕戦で引退を表明したイチロー選手の関連資料を急遽特別展示として追加、他にも各企画展に応じたトークイベントを適宜開催して話題性を高めました。

この様に、幅広い年齢層にわたり、様々な企画を開催し野球の振興・普及に努めた結果、入館者数は、年度目標の10万人を超える前年比20%増の111,989人（前年比+18,839人）になりました。第3回WBC、長嶋氏の国民栄誉賞受賞記念の金バット特別展示の平成25年度以来5年振りに11万人を超えることができました。

2. 維持会員

維持会員は法人58社（前年比、同数）、個人会員136人（同、2人増）、ジュニア会員5人（同、1人減）となりました。今後も、さらに加入活動の促進と会員特典などの見直しを図り、ファン拡大に努めてまいります。

3. 野球殿堂

競技者表彰の松井秀喜氏、金本知憲氏、原辰徳氏の表彰式は、7月13日（金）に、京セラドーム大阪で開催されたプロ野球のオールスター・ゲーム第1戦の試合開始前に行われました。斉藤惇理事長、松井秀喜氏、金本知憲氏、原辰徳氏、花束のプレゼンターとして、巨人の坂本勇人選手、阪神の糸井嘉男選手、巨人の菅野智之選手が出席され、大観衆の中で行われました。

また、特別表彰の故 瀧正男氏の表彰式は、8月15日（水）に、阪神甲子園球場で開催された第100回全国高校野球選手権記念大会の第2試合開始前に行われました。斉藤惇理事長、瀧正男氏のご長男 克己氏が出席され、公益財団法人日本高等学校野球連盟の八田英二会長から、克己氏に花束が贈呈されました。

次に、2019年の殿堂入りは、第59回競技者表彰委員会から立浪和義氏、権藤博氏、第58回特別表彰委員会から脇村春夫氏が選出されました。

これにより、殿堂入り顕彰者は、特別表彰107名、競技者表彰97名計204名となりました。

尚、11月に開催された特別表彰の候補者選考委員会での提案を受け、様々な分野で野球の発展に貢献した方々の調査、表彰制度の研究を行うための研究会を設置しました。

4. 普及・広報活動

野球振興につながる事案に積極的に対応し、また当館を紹介する記事、番組の取材や撮影に積極的に協力して広報に努めました。全国野球振興会(プロ野球OBクラブ)主催の全国少年野球教室にも、当館のパンフレットを13,000部提供するなど、開催に協力いたしました。

5. 資料収集

博物館の基礎ともなる展示資料及び図書の収集を積極的に行いました。ご協力いただいた皆様には深く感謝いたします。

① 収集資料:319点(前年470点)

② 収集図書:864冊(前年930冊)

尚、資料収集に際しては、将来に何を残すかを組織的かつ円滑に行うために、「収集資料検討委員会」(原則、毎月1回開催)において協議し決定しております。

6. 館外活動

球界関係、地方公共団体や類縁機関などが主催の展覧会やイベントに際し、資料の貸出に加え、企画の相談にも対応するなど積極的に協力し、野球振興に努めました。高校野球100回記念展、プロ野球球団周年事業等合計8件の貸出を行いました。

7. リニューアル検討委員会

リニューアル検討委員会は「野球殿堂博物館在り方検討委員会」報告書にて示された課題を達成するため、平成28年12月に第1回を開催し、平成30年9月までに7回実施しました。諸般の事情により、喫緊の課題である野球殿堂ホールのレリーフ掲額場所の増設に絞り、協議を行いました。

殿堂ホールの格調を維持し、今後10年程度耐えうるレリーフの掲額スペースを確保する手段として下記の3案を検討しました。

案1 殿堂ホールの延伸(36名分)

隣接する区画(殿堂収蔵庫)の壁を取り払い、延伸する

案2 殿堂ホール内に展示壁面を新設する(72名分)

ホール内に新たに壁面を設置し、掲額スペースを増やす

案3 殿堂ホール内に掲額展示用什器を設置する(48名分)

ホール内に可動式掲額展示用什器を設置する

検討の結果、案3 掲額展示用什器の新設に決定し、

- ・現状の殿堂ホールの雰囲気維持、またお客様の安全面の確保を重視する上で、什器の高さを低く抑えた方が良いという点
- ・一括ではなく、段階的に台数を増やすことができるという点
- ・費用が低く抑えられる点

を考慮し、(株)ムラヤマの提案に決定しました。

尚、2019年4月に継続して提言された課題達成に取り組むために、検討チームを発足予定です。